寿の会理事長殿　　２０２６年6月7日

２０２５年度決算にかかる
監　事　監　査　報　告

監事　　島崎恵子
屋敷紘美

１，監査日、出席者

監査日　　２０２６年６月４日　９時から１５時
開催場所　　あじさい会議室・菅谷施設
出席者　　理事者側　佐々木紀明理事長、青山昭一事務長、佐藤美晴氏
監　　事　島崎恵子、屋敷紘美

２，はじめに

今年２月末、突然アメリカとイスラエルのイラン攻撃が始まり、イランの最高指導者ハメネイ師が殺害されましたが、これらは国際法違反の国家テロです。当初トランプ氏は４週間ほどで決着がつくと豪語しましたが、現在でも「戦争状態」は継続し、双方がホルムズ海峡封鎖を行っています。

この海峡封鎖をはじめ、中東の原油生産・精製設備の破壊は世界経済に重大な影響を与え、世界各国で石油関連製品のみにとどまらず、運輸・食品など広範な分野で製品不足・価格高騰を招いています。近い将来停戦が合意されたとしても、この原油由来の製品不足・価格高騰は、近い将来改善される想定には悲観的にならざるを得ません。

当会にあってもその影響は今後さらに深刻さを増すと予測され、当会を含む民医連全体で対処方針を立案・対策を急ぐ必要があると思料されます。

３、監査総括

今年度の事業運営の総括は「２０２５年度　介護老人保健施設あじさい　総括　２０２６／４／２８」になされていますが、各重点目標の到達点、未達点がよく整理されていて妥当なものと思料します。

経営の収支内容はすべての事業で黒字化が達成されています。いくつかの条件があったと思料されますが、何よりも定数が満たされない中で奮闘された職員さん方に敬意を表します。

４、事業経営に関して

現金有り高、預金残高証明書を通帳・試算表と突き合せましたが正常に表記されていました。

決算書は月例で報告されている流れから大きく異なる点はなく、正常に報告されていると推認できます。

収支に関してはあじさい（入所）は 13,605,987 円の収益、あじさい（通所）は 8,152,576 円の収益、小規模科機能（ぽかぽか）は 970,200 円の収益、サ高住（ルーチェすがや）は 1,042,397 円の収益で、総合では 20,969,776 円の収益でした。昨年度の 400 万強の収益

からの大幅な改善という結果でした。全体の経営改善では通所事業の収益好転、菅谷事業の黒字化が大きいと思料しますが、今後とも通所事業への注力と菅谷事業の収支均衡を目指して、具体的な目標設定とその管理意識の徹底が求められます。

5、いくつかの指摘事項

①利用者未収金の管理について

＊回収困難分として　w 氏　17,920 円（R 6 ・ 4 月）について回収努力がなされていることを確認しました。

＊「利用者未収金勘定」の新設定について、かねてより指摘してきましたが今回も重ねて指摘しておきます。回収担当者の意識づけ、決算内容の公開性を担保するためにもその必要性を認めます。

②決算処理上の問題点

＊サ高住ルーチェの入室契約時の価格設定の際に発生する「値引き」額をこれまで利用者未収金として処理し積み上げてきましたが、今次決算時、いくつかの費用項目へ洗い替え処理を行いました。その処理自体はやむをえませんが問題点 2 点を指摘しておきたい

ⅰ、協同組合の性格上、個別の価格交渉は有りだとして、職階のどの段階で判断するか

ⅱ、今回の洗い替えの処理についての「振替伝票」の処理印は経理担当者にとどまっています。この処理は資産（事業者未収金）から費用（水道代等）への振り替えである以上、どの職階で決済するかの内規が必要と思料されます。

③中期計画の策定に向けて

＊同計画の策定は、社会情勢の不安定化を踏まえて、その必要性が言われていることは衆知のことであります。今年度の理事会・幹事会で短時間でも意見を出し合い、設定に向けて志向すべきと思料します。（切り口は 2 点）

ⅰ、事業目標について　　ⅱ、職員体制の作り方

6、施設管理について

＊あじさい施設の屋上部分の点検を行いました。異常は確認されませんでしたが、定期点検が無難と思料されます。

：菅谷施設はよく管理されていました

以上